

式 辞

厳しい冬の寒さを耐え抜き、朝日かがやく石鎚の雪解けとともに、早春の息吹が感じられる今日の佳き日に、愛媛県議会議員大西誠様、伊予市長武智邦典様をはじめ、多数の御来賓の皆様のご臨席を賜り、令和七年度愛媛県立伊予農業高等学校 卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員並びに在校生一同にとりまして、大きな喜びであります。ここに厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました百九十三名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。本校に入学してから、様々

な経験や努力を重ね、人間的にも大きな成長を遂げた皆さんに、心から祝福の拍手を送りたいと思います。

皆さんとは、一年間という短い期間の関わりでしたが、学校行事や部活動を通して見せてくれた礼儀正しい振る舞いや、笑顔で挨拶が返ってくる伊予農スマイルに心温まる思いでした。また、「声出せ 汗出せ 力出せ」の伊予農スローガンを胸に取り組んだ初めての屋内運動会、多くの地域の方々に御来校いただき、大盛況で終えた農業祭等、どれをとっても皆さんは、伊予農の誇りです。

たくさんの感動を本当にありがとうございます。

保護者の皆様におかれましては、今日まで深い愛情を持って育ててこられたお子様が、

今日の佳き日を迎えられ、感慨もひとしおのことと存じます。これまで、お子様の成長の過程では、いろいろな御苦勞がおありだったと拝察いたします。保護者の皆様に、改めて心からお慶び申し上げます。

さて、卒業生の皆さんが生きるこれからの時代は予測困難な時代であり、一層先行きが不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えない問いにどう立ち向かうのかが問われています。そこで、これからの時代を生きる皆さんへ、二つのことをお伝えし、はなむけの言葉といたします。

一つ目は「根を深く張る」ということです。授業の中で作物を育てた際、「根」の大切さを学んできました。地上に見える茎や葉、

そして立派な果実は、すべて地中の根が支えています。強い風が吹いても、激しい雨が降っても、作物が倒れにくいのは、見えないところで根がしっかりと大地を掴んでいるからです。

これから皆さんが踏み出す社会は、予測困難で、時には厳しい嵐に見舞われることもあるでしょう。そんな時こそ、目に見える成果ばかりを追い求めるのではなく、まずは自分の「根」を深く張ることを意識してください。それは、目の前の仕事に誠実に取り組み、周囲の人との信頼関係を築くことで成し遂げることができなのです。「根」を深く張る時期は、外見からは何も変わっていないように見えるかもしれませんが。しかし、その地道な

積み重ねこそが、やがて大きな花を咲かせ、豊かな実りをもたらす唯一の道なのです。自分自身の可能性を信じ、力強く、自分の足場を固めていってください。

二つ目は「感性を耕し続ける」ということです。農業という営みは、単なる技術の行使ではありません。刻一刻と変化する空の色、風の匂い、土の湿り気、そして言葉を発しない動植物たちのわずかな変化。皆さんはこの三年間、自然の微細なサインを感じ取る「感性」を磨いてきました。

効率やスピードが重視される現代社会において、この「感じる力」は、ともすれば置き去りにされがちです。しかし、真に豊かな人生とは、数値化できる成功ではなく、

身近な美しさや他者の痛みに気づける心の中にあります。社会に出ても、自分の心という畑を放置せず、常に耕し続けてください。新しい知識を取り入れ、多様な価値観に触れ、美しいものに感動する心を忘れないでください。こうして心が豊かになれば、どんなに厳しい環境であつても、そこから新しいアイデアや、他者への優しさが芽吹いてきます。今後は伊予農業高校で培った「観察する力」と「慈しむ心」を、自分自身の生き方や、人間関係の中に活かして行ってほしいと思います。変化の激しいこれからの時代は、決して平坦な道ばかりではないでしょう。しかしながら、社会は必ず皆さんの力を必要としています。伊予農業高校で学び、身に付けた逞し

さを礎に、輝かしい未来に向かって、一步一步着実に歩み続けていくことを切に願っています。

巣立ちゆく皆さんの御活躍を心から祈念し、式辞といたします。

令和八年三月一日

愛媛県立伊予農業高等学校長 永井伊秀